

こんにちは 山田耕平 です

2012.8.16 No.83 (保育特集号)

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11
TEL 090-9973-0941
ホームページ
<http://yamadakohei.jp>

井草一丁目19番 民間(株式会社)認可保育所整備計画 計画が破たん…早急に代替施設を

民間丸投げの問題が露呈 区は増設計画に責任を

七月二十六日(木) 臨時の保健福祉委員会が行なわれ、井草一丁目に増設計定だった認可保育所の整備計画が破たんし、区が整備計画を断念したとの報告がされました。

この間、ニュースなどでも取り上げてきましたが、当初は今年の十月に開設される予定でしたが、土地の確保が進まず、整備が進んでいませんでした。

私も、計画の進捗状況などについて、現地での聞き取り調査や、運営事業者への確認をしていました。

委員会での質疑により明らかに

第二回定例会の委員会での質疑で、区は、計画の遅れに対し、来年度四月開設を目指して、計画を進めるとしていました。

しかし、私が現地調査(建設予定地には賃貸住宅が並び、二年間の賃貸契約を結んだ

計画予定地(奥には民家)



ばかりの住民が住んでいる等々)の事実や、運営事業者への聞き取り内容について質問したところ、区は実態を把握しておらず、再度の調査を約束。今回の整備計画の破たんが明らかになりました。

井草1丁目認可保育所整備計画 破たんまでの経緯

◆ 計画の概要

- ・2012年10月開設予定
- 定員 110~120名程度 ○対象 0~5歳児
- 設置場所 井草一丁目19番
- 土地面積 約900㎡
- 延べ床面積 813㎡ RC造2階建 園庭あり
- 運営事業者 (株)サクセスアカデミー

◆ 破たんまでの流れ

- 公募により、民間事業者が直接、区に物件を持ち込み、選定の上で計画化し、新設が進められた。土地所有者が施設を建設し、事業者が保育所を運営する。提案段階では内諾を得ていた。
- 土地所有者との協議が進展しない状況が続く。
- 土地所有者から「当該土地活用を見合わせたい」との意向が示される。 計画破たんへ

◆ 今後の区への対応

- 選定段階で土地活用の確認文書を提出させる。
- 井草地域に代替策を早急に取りまとめる。

待機児童ゼロに向けて 早急な代替施設の設置を

今回の事態は、区の柱となる計画(待機児童ゼロ)の遅れを意味しており、重大な問題です。

そもそも、区の重要な施策を民間に丸投げし、計画の進捗状況などの詳細を掴んでこなかったことが根本的な問題です。

当初開設予定だった一〇名規模の認可保育所の代替施設を速やかに増設することが求められます。

そのためにも、この間ニュースで取り上げてきた国公有地の活用も含め、用地確保などには、区が責任を持つことが必要になっていきます。

裏面に関連記事

選定事業者では、過去に過労死問題も…

事業者選定時に詳細な調査をするべき

急速な事業拡大に伴い 人材確保に追われて過労死：

井草一丁目に増設予定だった認可保育所の運営事業者について調べたところ、〇七年に従業員の過労死が発生していることが分かりました（詳細下記）。そのことについて、委員会でも区に確認したところ「事実を把握していない」とのことでした。事業者選定の際に、過去に運営上発生した事件などの調査をしていないことは問題です。

この運営事業者は、今年度四月の時点でも六園の認可保育園の開設を行っており、急速な事業拡大は、今もなお、続いています。

今後、区の計画は、区がしっかりと情報を収集し、事前の調査や計画の現実性など、事態の把握に努めることが必要です。

「働く人たちを大事にしなければ
子どもたちを守れない」

亡くなった職員の夫の発言です。まさに、保育所運営に必要な視点です。

各自治体でも問題に…
今回の運営事業者の事業認定については、以前から、川崎・練馬・小金井などの各自治体でも問題になっていました。

認可保育園などの増設については、営利を目的とした株式会社などに丸投げするのではなく、公立を重視するべきです。民間であつたとしても、社会福祉法人などの非営利事業者を中心に、財政的な支援や土地の確保には行政が責任を持つなどの手立てが必要です。

運営事業者の従業員過労死事件について

株式会社サクセスアカデミーで発生した過労死事件で亡くなった方は、女性管理者（当時58歳）で、保育運営部長とのことです。

過去の新聞報道などによると、急速な事業拡大に伴い、来年度2008年に認可保育園5園の開設を控え、人材確保に追われていました。持ち帰り残業などの時間外労働が月平均90時間以上。酷い時には100時間の月もあつたとのことです。自宅で会社の書類を拵げたまま死亡しており、労働基準監督署では、労災としての認定もしています。

亡くなった職員の夫は「子どもの命や発達を保障する会社が、そこで働く人たちを大事にしないと、子どもたちを守れない。利益に追われず、足元を見つめ直して」と訴えています。

日本共産党の主催で行われたシンポジウムには、亡くなられた職員の夫（社会福祉法人・保育園理事長）が参加し、保育分野への企業参入のリスクに警鐘を鳴らした。



育メン日誌

8月13日 二歳になりました！

息子が二歳の誕生日を迎えました。早いもので、アツという間の2年間でした。バタバタと慌ただしく過ごしてきましたが、家族揃って元気よく、とても充実した時間となりました。

誕生日には、車の玩具やプロレスマスク「タイガーマスク・同僚から（笑）」、乗り物の絵本などをプレゼントされ、大はしゃぎ！

特に、近所のバアバからプレゼントされた乗り物絵本は、とても気に入り、いつでもどこでも持ち歩いています。重くて大変ですが…（笑）

みなさんの温かい眼差しを受けて、息子はスクスクと成長しています。消費税や原発、新システムなど、先行き不透明な日本社会ですが、子どもたちの未来を守るために、今が私たち大人の踏ん張り所です。お父さんも頑張るぞ～！



生クリームより果物が好き（左）上の果物だけ、奇麗に無くなりました。